

植田 めぐ美

1. 事業実施の目的：博士論文執筆のための史料調査と収集
2. 実施場所：イタリア国ローマ市所在イエズス会ローマ文書館 (ARSI: Arquivum Romanum Societatis Iesu)
3. 実施期日：平成 31 年 2 月 24 日 (日) から 3 月 10 日 (日)
4. 成果報告

●事業の概要

報告者は、16 世紀ブラジルにおいてイエズス会宣教師が行ったトゥピ語の宣教活動と「聖性」と呼ばれた先住民による抵抗運動を検討し、先住民がどのようにキリスト教に対応したかについて研究している。これまでは、既刊史料の検討から研究を進めてきたが、博士論文執筆にあたっては、実際に文書館を訪れ、手稿史料を検討することが望ましい。従って、本事業では、研究対象となる手稿史料の多くが所蔵されているイエズス会ローマ文書館にて、博士論文執筆に向けた史料調査と収集を行った。特に、宣教師が作成、使用したトゥピ語の問答書、祈祷書、詩、宗教劇の手稿史料を収集することを主要な目的とした。

本事業の実施場所であるイエズス会ローマ文書館は、月曜日から金曜日の 9 時から 12 時 45 分、14 時から 16 時 45 分まで史料の閲覧ができる。所蔵している史料の多くはマイクロフィルムに保存され、文書館備え付けのパソコンでデジタル画像を閲覧することができる。デジタル画像化されていない史料は原本の閲覧を申請しなければならない。所蔵史料の数はかなり多いが、宣教地域によって各コレクションに分けられ、目録も刊行されている。しかし、目録は簡略であり、各史料に目を通すことが必要であった。

本事業における具体的な活動内容は、以下の 2 点である。

1) 西欧語史料の調査と収集

西欧語史料に関しては、主に、ブラジルの宣教活動に関して記された書簡、報告書、年報、巡察記録、目録などが所蔵されている Bras コレクション (1-28 集) を中心に調査した。特に、16 世紀後半に作成された手稿史料を調査と収集の対象とした。まず、Bras コレクションに所蔵されている史料の全体像を把握するために、どのセクションにどのような史料が所蔵されているのかを確認する調査を行った。その際、各史料が所蔵されているセクション番号、ページ番号、作成年、著者をチェックし、リストを作成しながら調査を進めた。また、文書館所蔵の「ブラジルにおけるイエズス会の歴史 (Leite, Serafim; Santos, Cesar Augusto dos (org.). *História da Companhia de Jesus no Brasil, tomo I*. São Paulo: Ed. Loyola, 2004)」を参考にして、各史料が扱っているトピックをリストに書き加えた。次に、作成したリストから収集する史料の選別を行った。「ブラジルにおけるイエズス会の歴史」に引用がなく、扱っているトピックが不明な史料に関しては、読み込みを行った。以

上の調査を行った上で、特に、トゥピ語による宣教活動に関する複写史料、「聖性」に関する複写史料、計43点を収集した。なお、これらの史料はポルトガル語、スペイン語、ラテン語で記された書簡、報告書、年報、巡察記録、目録である。

2) トゥピ語史料の調査と収集

トゥピ語史料に関しては、Opp. NNとAPGSIに問答書、祈祷書、詩、宗教劇の手稿史料が所蔵されていることを事前に把握していたが、今回、具体的にどのような内容の史料が何点所蔵されているのかを調査できた。調査の結果、16世紀にイエズス会士ジョゼ・デ・アンシエッタが作成した問答書と祈祷書の写本3点（その内訳は、1点が17世紀、2点が18世紀に写されたものである）、詩や宗教劇のノート1冊（16世紀の手稿を含む）とその写本（18世紀）、16世紀後半に出版されたアンシエッタ作成の文法書が所蔵されていることが判明した。なお、イエズス会ローマ文書館の史料の多くはマイクロフィルムに保存され、デジタル画像を閲覧できるが、18世紀の写本2点に関してはデジタル画像化されていなかったため、原本を閲覧して、内容の確認を行った。16世紀の手稿が含まれる詩や宗教劇のノートはデジタル画像化されていたが、原本閲覧を申請し、実際に手に取って当時の紙質やインクで書かれた文字の状態を確認した。なお、今回の調査では、既にデータを所有していた文法書を除く上記のトゥピ語史料5点を収集することができた。

●本事業の実施によって得られた成果

本事業の実施によって、具体的に以下の3点の成果が得られた。

第1に、実際に文書館を訪れたことで、史料の調査と収集方法の要領を学ぶことができた。

第2に、Brasコレクションにどのような史料が所蔵されているかを調査したことで、ブラジル関連史料の所蔵状態の全体像を把握することができた。また、史料のリストを作成したことで、今後の史料調査と収集がより効率的に行われる見通しが立った。

第3に、イエズス会ローマ文書館にどのようなトゥピ語史料が所蔵されているか把握できたことに加え、今後の研究に必要不可欠となるトゥピ語の手稿史料やその写本を収集することができた。

今後は、収集した手稿史料の読み込みと分析を行い、博士論文執筆に向けて研究を進展させてゆく。

●本事業について

本事業による助成のおかげで海外文書館における史料調査と収集が可能となり、博士論文執筆に向けての研究が進展する見通しを得ることができました。本事業の実施を許可して頂いた先生方と担当者の皆様に感謝申し上げます。学生が研究を進めるためには資金が必要不可欠ですので、今後も学生派遣事業が継続されることを望みます。